

日本博2.0セミナーシリーズ 2025年度 第3回

来場者アンケート集計・分析のノウハウ（初級編 Part2）

2026/2

一般社団法人 芸術と創造
Platform for Arts and Creativity

代表理事 綿江彰禪



これまでに実施してきたセミナー

2022年度	第1回	経済波及効果の算出と活用方法
	第2回	日本博の成果を考える ～日本博2.0に向けて～
2023年度	第1回	有効な来場者アンケート実施のノウハウ
	第2回	外国人来場者の識別・推計のノウハウ
	第3回	外国人来場者の満足度向上に向けた磨き上げの好事例～国立新美術館と利賀文化会議による取組み～
2024年度	第1回	日本博2.0の効果検証の留意点～効果検証計画書の記載結果を基に～
	第2回	令和5年度の効果検証の結果と来場者アンケートの国籍別の分析結果
	第3回	来場者アンケート集計・分析のノウハウ（初級編 Part1）
2025年度	第1回	来場者アンケート回収率向上におけるノウハウ
	第2回	令和6年度の効果検証の結果からみる日本博事業の成果と課題
	特別編	「効果検証計画書から見た改善点」と「効果検証報告書作成のポイント」
	第3回	来場者アンケート集計・分析のノウハウ（初級編 Part2）

明確な意図を持ってアンケートの分析を行うメリット

主なアンケートの実施手法

手法別解説：① 紙のアンケートを配布しExcel等にて管理

手法別解説：② Googleフォーム等の入力フォームを活用

手法別解説：③ Questant等のアンケート専用ツールを活用

さいごに

明確な意図を持ってアンケートの分析を行うメリット

主なアンケートの実施手法

手法別解説：① 紙のアンケートを配布しExcel等にて管理

手法別解説：② Googleフォーム等の入力フォームを活用

手法別解説：③ Questant等のアンケート専用ツールを活用

さいごに

明確な意図を持ってアンケートの分析を行うメリット

- 単純集計：全体をまとめて分析するもの ⇔ クロス集計＝2軸以上での分析を行うもの
- 目的を明確にしてクロス集計を行うと、
以降の事業実施に向けた具体的なアクションにつながる示唆を導ける。
- 次項以降、仮想の日本博採択事業を設定した上で、そのメリットを説明する。

仮想の日本博採択事業を元にした解説：事業の設定

- 展示型フェスティバル事業。
- 事業の4つの要素によって構成される。
 - メイン展示（会場A）
 - ➡ 従来より日本人向けに実施しているもの。
 - サブ企画（会場B）
 - ➡ 日本博の採択をきっかけとして実施することになった展示。
日本の文化・歴史を詳しく理解していない外国人でも楽しんでもらえるような内容。
 - 参加・体験型事業（ワークショップやガイドツアー）
 - ➡ こちらも、日本博の採択をきっかけとして実施することになったもの。
英語のみで実施しており、明確に外国人を意識。
 - 飲食サービス（フードコート）
 - ➡ 新規に実施。日本人も含めた全来場者が楽しめるものであるが、日本らしい食事を充実させるなど、外国人を意識。

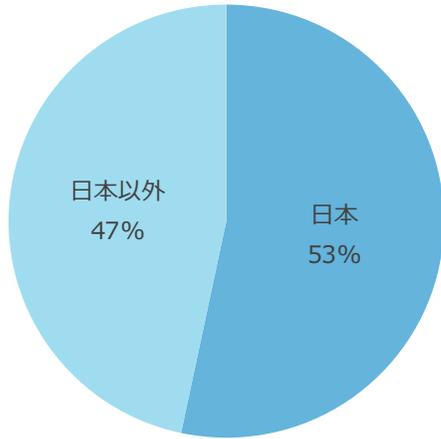
仮想の日本博採択事業を元にした解説：来場者アンケートの中身

- 議論を単純化するため下記の4問からなる来場者アンケートを実施し30人から回答を得たものとする。
- アンケートは実際には、英語も併記し日本語話者・英語話者に対応していたものとする。

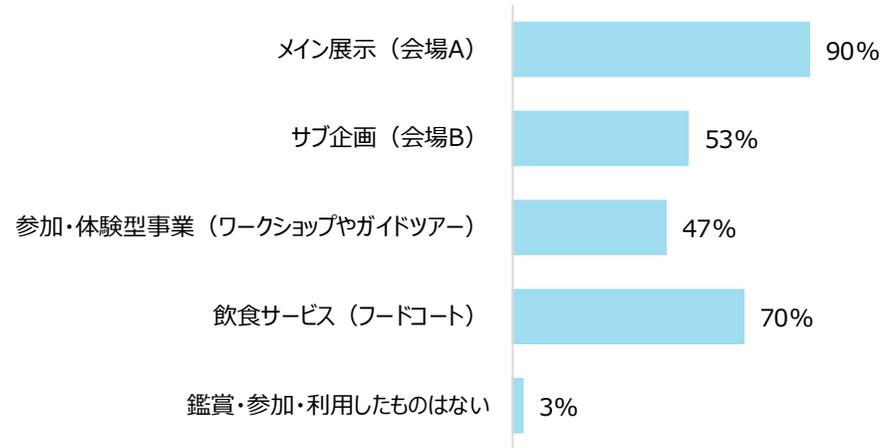
設問	設問文	回答者の条件	選択肢	表示条件
Q1 居住地	あなたの居住地を選択してください。 (1つだけ選択)	全員	1 日本	
			2 日本以外	
Q2 鑑賞・利用したもの	本事業を構成する次の内容のうち、 鑑賞・参加・利用したものがあれば、 全て選択してください。	全員	1 メイン展示（会場A）	
			2 サブ企画（会場B）	
			3 参加・体験型事業（ワークショップやガイドツアー）	
			4 飲食サービス（フードコート）	
			5 鑑賞・参加・利用したものはなし	排他設定
Q3 満足したもの	では、そのうち、満足したものがあれば、 全て選択してください。	Q2で1~4を1 つでも選択	1 メイン展示（会場A）	Q2で1を選択
			2 サブ企画（会場B）	Q2で2を選択
			3 参加・体験型事業（ワークショップやガイドツアー）	Q2で3を選択
			4 飲食サービス（フードコート）	Q2で4を選択
			5 満足したものはなし	排他設定
Q4 総合満足度	あなたは、本事業全体について、 どのような感想をお持ちですか。 (1つだけ選択)	全員	1 満足	
			2 どちらかという満足	
			3 どちらともいえない	
			4 どちらかという不満	
			5 不満	

仮想の日本博採択事業を元にした解説：単純集計（全回答をまとめた集計）

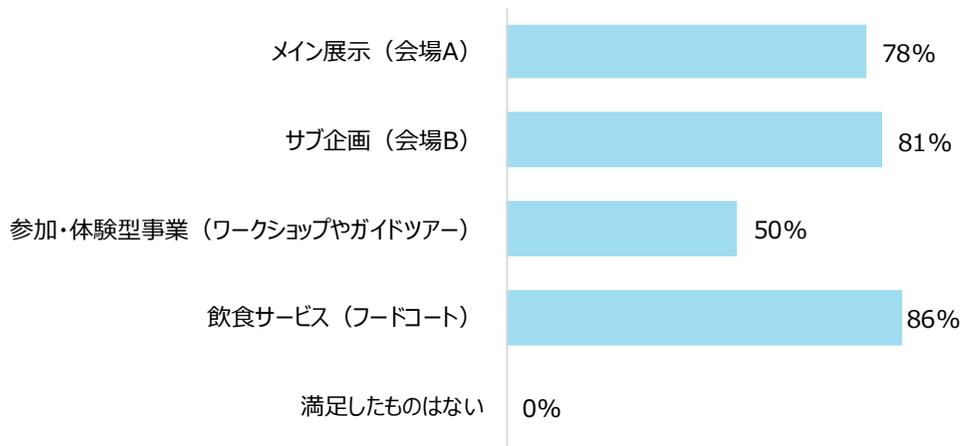
【Q1 居住地】



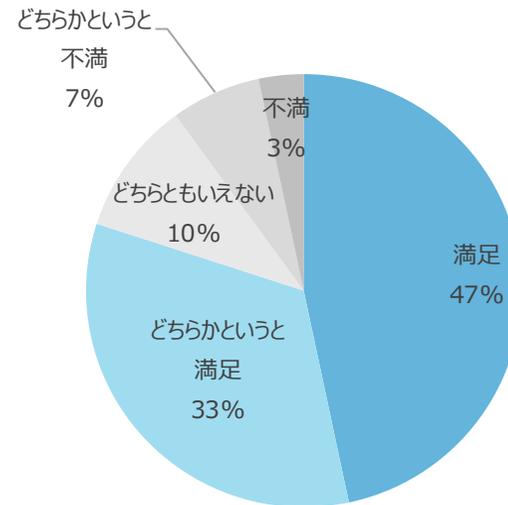
【Q2 鑑賞・利用したもの】



【Q3 満足したもの】



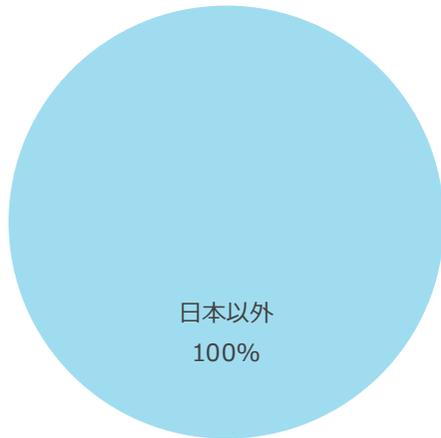
【Q4 総合満足度】



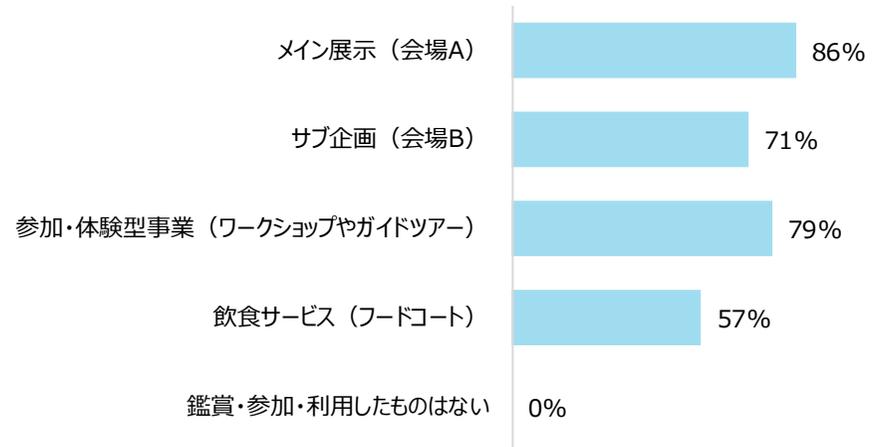
仮想の日本博採択事業を元にした解説：国外居住者を抽出

➡国外居住者の満足度のほか、メイン展示、参加・体験型事業の利用率や飲食サービスの満足度が比較的高いことが明らかになるが、具体的なアクションにつながる示唆は乏しい。

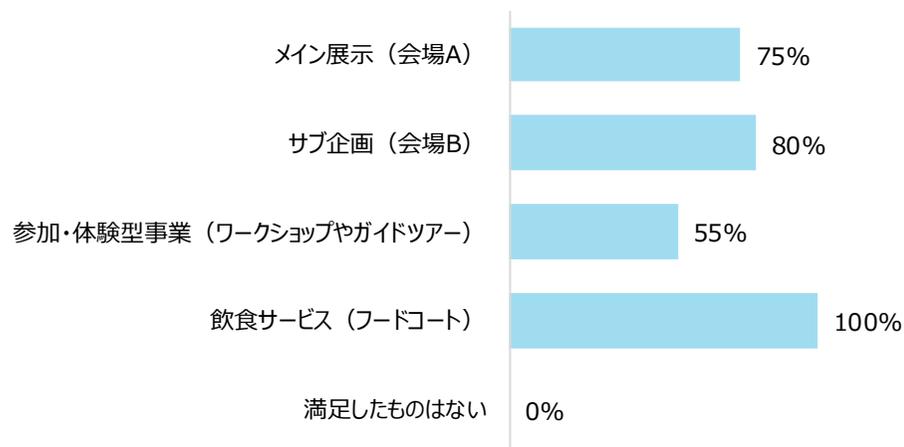
【Q1 居住地】



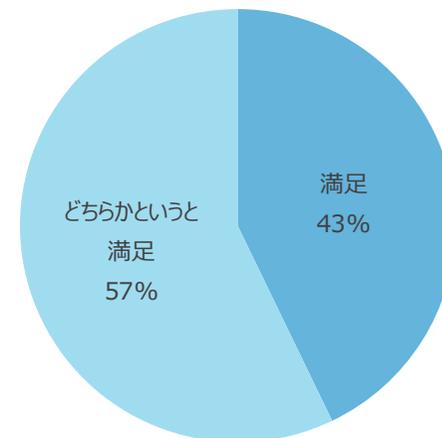
【Q2 鑑賞・利用したもの】



【Q3 満足したもの】



【Q4 総合満足度】

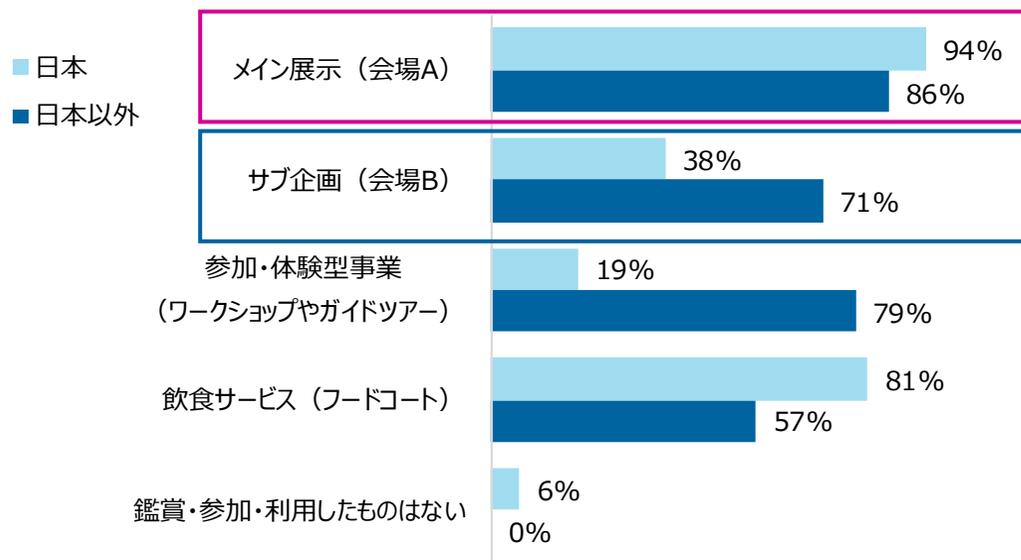


仮想の日本博採択事業を元にした解説：より踏み込んだ集計・分析の視点①

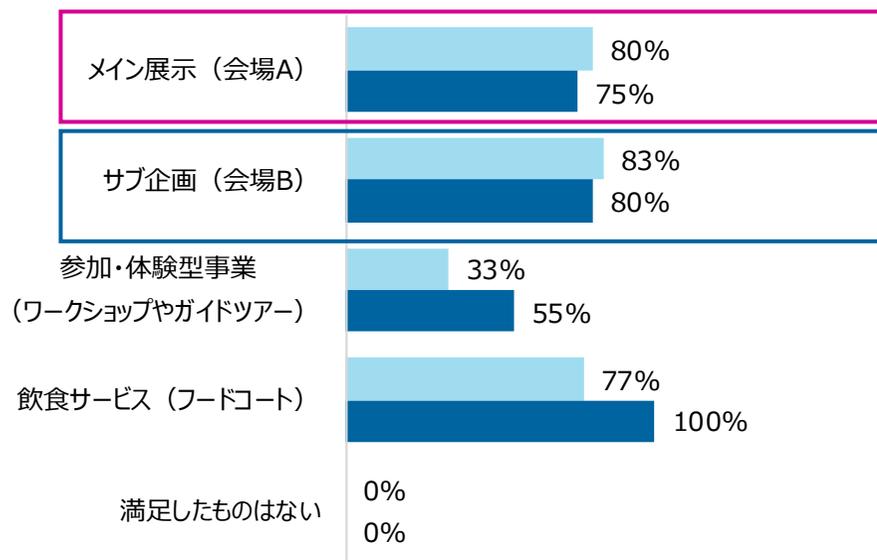
➡国内居住者と国外居住者を比較することで以下のような考察を行うことが可能になる。

- 「メイン展示」は、元々日本人向けを意識していたものであるが、国外居住者にも鑑賞され、満足されている。
- 「サブ企画」は、日本の文化・歴史を詳しく理解していない外国人でも楽しんでもらえるような展示を意識したものであった。
国外居住者には、メイン展示の86%に対して71%と、多くの人に鑑賞してもらったことが分かった。メイン展示の75%に対して満足度も80%と高かった。
- 「サブ企画」は、外国人をターゲットとしていたので、国内居住者には十分な広報・周知をしておらず、鑑賞率は38%と低かったが、鑑賞者の満足度は83%と高かった。
外国人向けと考えていた内容が、実は日本人にとっても楽しめる内容だったことが分かった。
次年度以降は、外国人に限定した取組としないほうが良い可能性がある。

【Q2 鑑賞・利用したもの】



【Q3 満足したもの】



※前頁の続き

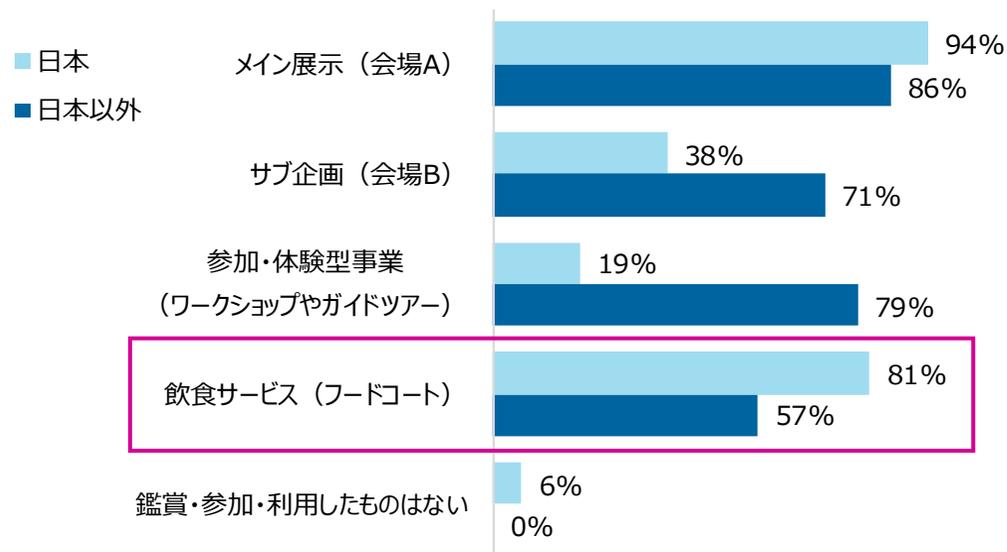
■ 「飲食サービス」も外国人を意識したものであったが、むしろ国内居住者のほうが利用率が高かった。

外国人にとっては、利用のハードルが高かった可能性がある。

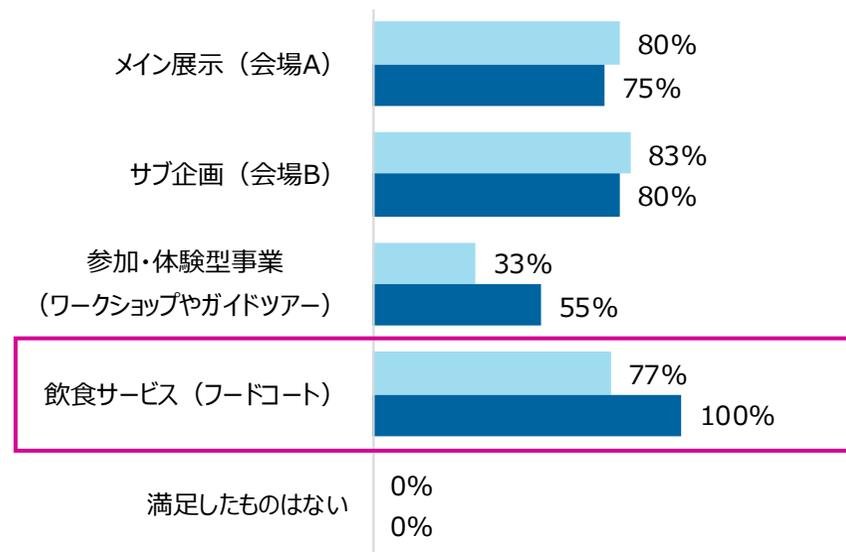
ただ、国外居住者の利用者の満足度は国内居住者と比較しても非常に高く、内容面は評価が高かったことがわかる。

次年度以降はハードルを下げる工夫を展開するとともに、アンケートでは利用した理由・利用しなかった理由を探って改善を図りたい。

【Q2 鑑賞・利用したもの】



【Q3 満足したもの】



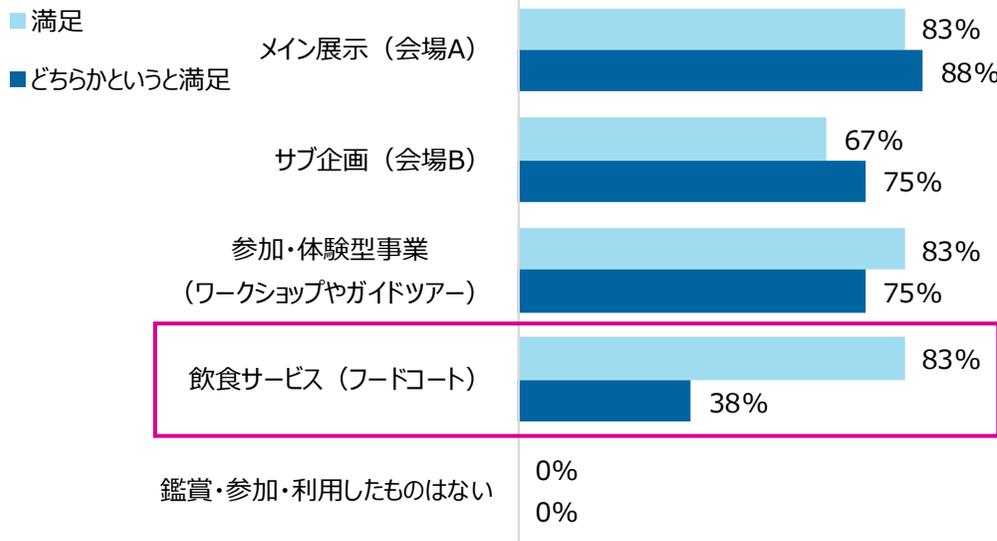
仮想の日本博採択事業を元にした解説：より踏み込んだ集計・分析の視点②

➡ 国外居住者の総合満足度が、「満足」と「どちらかという満足」を比較することで以下のような考察も可能に。

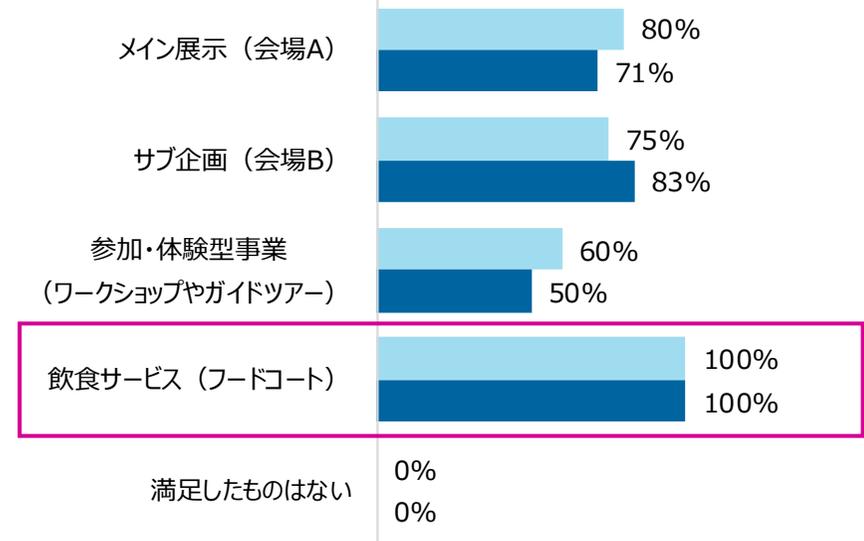
- 各種要素の鑑賞・利用者の満足度は大きな差がない。
- 特に差が見られたのが「飲食サービス」の利用率（「満足」と「どちらかという満足」で2倍以上の差）。
- 総合満足度に「飲食サービス」の利用が大きく関係・貢献していた可能性がある。

次年度以降は、「飲食サービス」の魅力を向上し、国外居住者の利用率を上げるとともに、引き続き、総合満足度との関係（因果関係）を分析したい。

【Q2 鑑賞・利用したもの】



【Q3 満足したもの】



そのほかの集計・分析の視点例

集計方針	分析の視点
<p>事業の来場者全体と 今年度事業で特に増加を狙っていた来場者※の比較 ※例) 来日前は当該事業を知らなかったが、 来日後に当該事業を知り訪問した 現代美術に関心が高い外国人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 増加を狙っていた来場者が来場者に占める割合 ➡○% (○人) であったので狙いは成功/失敗 ● 事業の認知経路 ➡力を入れていた観光案内所からの紹介の割合が高く、有効であることがわかった。 一方で、同じく力を入れていた周辺交通機関でのサインージ広告はあまり有効ではなかった。こちらは来年度以降、縮小を検討。 ● 事業について満足した要素 ➡主催者側が評価が高いだろうと予想していた 「日本の現代美術作家が同時に沢山見られる」という点よりも、 「日本の美術の歴史的な変遷・変化が分かる」点が評価されたことがわかった。
<p>外国人の居住地や回答言語別の集計</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 多言語対応に関する満足度 ➡「英語」の満足度は高く、「繁体字」の満足度は低かった。 繁体字の翻訳を改善する必要。 ● 事業内容別の満足度 ➡アジア系はインスタ映えする展示Cへの満足度が高く、 欧米系はユニークベニューを使った展示Dへの満足度が高かった。 次年度以降は居住地別のターゲットに応じて、事業の魅力の売り出し方や、 広報のメインビジュアルを変えることを検討。

明確な意図を持ってアンケートの分析を行うメリット

主なアンケートの実施手法

手法別解説：① 紙のアンケートを配布しExcel等にて管理

手法別解説：② Googleフォーム等の入力フォームを活用

手法別解説：③ Questant等のアンケート専用ツールを活用

さいごに

主なアンケートの実施手法：各手法の評価

⇒主に下記の①②③に大別される。金銭負担面や機能面など一長一短あり。

主な実施手法	金銭負担	調査票（調査画面）作成		回答データの 入力 作業	自動集計機能	
		見栄え・ 信用	分岐設定 機能		単純集計	クロス集計
① 紙のアンケートを配布しExcel等にて管理	無 ※印刷・入力 コストは有り	高～低 ※作成方 法次第	—	有	—	
② Googleフォーム等の入力フォームを活用	無	低	弱	無	有	無
③ Questant等のアンケート専用ツールを活用	有 ※使用料	高	強	無	有	有

主なアンケートの実施手法：本セミナーでの説明順

➡以降は、仮想の日本博採択事業を元にして、以下の①②③に関して、

「A. 調査票（調査画面）作成」、「B. 回答データの入力」、「C. 単純集計」、「D. クロス集計」の方法を解説。

主な実施手法	本資料での説明			
	A. 調査票（調査画面）作成	B. 回答データの入力	C. 単純集計	D. クロス集計
① 紙のアンケートを配布しExcel等にて管理	○	○	○	○
② Googleフォーム等の入力フォームを活用	○	(不要のため 割愛)	○	○
③ Questant等のアンケート専用ツールを活用	○	(不要のため 割愛)	○	○

再掲) 仮想の日本博採択事業：来場者アンケートの中身

- 議論を単純化するため下記の4問からなる来場者アンケートを実施し30人から回答を得たものとする。
- 実際には、英語も併記し日本語話者・英語話者に対応していたものとする。

設問	設問文	回答者の条件	選択肢	表示条件
Q1 居住地	あなたの居住地を選択してください。 (1つだけ選択)	全員	1 日本	
			2 日本以外	
Q2 鑑賞・利用したもの	本事業を構成する次の内容のうち、 鑑賞・参加・利用したものがあれば、 全て選択してください。	全員	1 メイン展示（会場A）	
			2 サブ企画（会場B）	
			3 参加・体験型事業（ワークショップやガイドツアー）	
			4 飲食サービス（フードコート）	
			5 鑑賞・参加・利用したものはなし	排他設定
Q3 満足したもの	では、そのうち、満足したものがあれば、 全て選択してください。	Q2で1~4を1 つでも選択	1 メイン展示（会場A）	Q2で1を選択
			2 サブ企画（会場B）	Q2で2を選択
			3 参加・体験型事業（ワークショップやガイドツアー）	Q2で3を選択
			4 飲食サービス（フードコート）	Q2で4を選択
			5 満足したものはなし	排他設定
Q4 総合満足度	あなたは、本事業全体について、 どのような感想をお持ちですか。 (1つだけ選択)	全員	1 満足	
			2 どちらかという満足	
			3 どちらともいえない	
			4 どちらかという不満	
			5 不満	

補足) 仮想の日本博採択事業：来場者アンケートの中身

- 「論理的にあり得ない回答の組み合わせの防止」、「回答者の負担軽減」の観点から以下のような設定を行うことが望ましい。

		回答者の条件	選択肢	表示条件
<p>(現実には想定しづらいが) Q2の1~4のうち1つも選択していない人が、個別要素の評価を行うことは不可能なので、Q3の回答者を制限</p>	さい。	全員	1 日本	
			2 日本以外	
Q2 鑑賞・利用したもの	本事業を構成する次の内容のうち、鑑賞・参加・利用したものがあれば、全て選択してください。	全員	1 メイン展示 (会場A)	
			2 サブ企画 (会場B)	
			3 参加・体験型事業 (ワークショップやガイドツアー)	
			4 飲食サービス (フードコート)	
			5 鑑賞・参加・利用したものはなし	● 排他設定
Q3 満足したもの	では、そのうち、満足したものがあれば、全て選択してください。	● Q2で1~4を1つも選択	1 メイン展示 (会場A)	Q2で1を選択
			2 サブ企画 (会場B)	Q2で2を選択
			3 参加・体験型事業 (ワークショップやガイドツアー)	Q2で3を選択
			4 飲食サービス (フードコート)	Q2で4を選択
			5 満足したものはなし	● 排他設定
Q4 総合満足度	あなたは、本事業全体について、どのような感想をお持ちですか。	全員	1 満足	
			2 どちらかという満足	
			3 どちらともいえない	
			4 どちらかという不満	
			5 不満	

5とその他の項目を同時に選ぶことは論理的にありえないので「排他」設定を行う。

(現実には想定しづらいが) Q2の1~4のうち1つも選択していない人が、個別要素の評価を行うことは不可能なので、Q3の回答者を制限

Q2
鑑賞・利用したもの

本事業を構成する次の内容のうち、鑑賞・参加・利用したものがあれば、全て選択してください。

● Q2で1~4を1つも選択

Q3
満足したもの

では、そのうち、満足したものがあれば、全て選択してください。

Q4
総合満足度

あなたは、本事業全体について、どのような感想をお持ちですか。

Q2で選択した要素のみ評価を行うことが可能なので、選択肢表示の条件を設定

● 排他設定

Q2で1を選択

Q2で2を選択

Q2で3を選択

Q2で4を選択

● 排他設定

明確な意図を持ってアンケートの分析を行うメリット

主なアンケートの実施手法

手法別解説：① 紙のアンケートを配布しExcel等にて管理

手法別解説：② Googleフォーム等の入力フォームを活用

手法別解説：③ Questant等のアンケート専用ツールを活用

さいごに

①紙のアンケートを配布しExcel等にて管理：A. 調査票作成

- 分岐設定や回答の制限を設けられない（文章で記載することも可能だが、記載すると複雑になる）ため、未回答、矛盾回答※を防ぐ仕組みがない。

※単一回答なのに複数を選択、Q2とQ3の内容の矛盾、同一設問内の矛盾等

【アンケート調査票例】

Q1. あなたの居住地を選択してください。（1つだけ選択）

- 日本 日本以外

Q2. 本事業を構成する次の内容のうち、鑑賞・参加・利用したものがあれば、全て選択してください。

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> メイン展示（会場A） | <input type="checkbox"/> サブ企画（会場B） |
| <input type="checkbox"/> 参加・体験型事業（ワークショップやガイドツアー） | <input type="checkbox"/> 飲食サービス（フードコート） |
| <input type="checkbox"/> 鑑賞・参加・利用したものはなし | |

Q3. では、そのうち、満足したものがあれば、全て選択してください。

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> メイン展示（会場A） | <input type="checkbox"/> サブ企画（会場B） |
| <input type="checkbox"/> 参加・体験型事業（ワークショップやガイドツアー） | <input type="checkbox"/> 飲食サービス（フードコート） |
| <input type="checkbox"/> 満足したものはなし | |

Q4. あなたは、本事業全体について、どのような感想をお持ちですか。（1つだけ選択）

- 満足 どちらかという満足 どちらともいえない どちらかという不満 不満

①紙のアンケートを配布しExcel等にて管理：B. 回答データの入力

➡紙のアンケートの記載結果をExcel等の表計算ソフトに入力する必要がある。入力にはルールが存在。

■ 望ましい入力、望ましくない入力については、

「来場者アンケート集計・分析のノウハウ（初級編 Part1）」で詳しく解説しているので要参照。

【望ましい入力結果例】

No	Q1	Q2-1	Q2-2	Q2-3	Q2-4	Q2-5	Q3-1	Q3-2	Q3-3	Q3-4	Q3-5	Q4
1	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1
2	2	0	1	1	1	0	-	1	0	1	0	1
3	2	1	0	1	0	0	1	-	0	-	0	2
4	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1
5	2	1	1	1	1	0	1	0	0	1	0	1
6	1	1	0	0	1	0	0	-	-	1	0	1
7	2	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	2
8	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1
9	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1
10	2	1	1	1	0	0	0	1	0	-	0	2
11	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1
12	1	1	0	1	1	0	1	-	1	0	0	4
30	2	0	1	0	0	0	-	1	-	-	0	2

①紙のアンケートを配布しExcel等にて管理：C. 単純集計

➡集計は関数を組むか、ピボットテーブル（後述）を活用する必要がある。

■ 関数を組む場合、COUNTIFS関数がおすすめ。

- =COUNTIFS（範囲1, 検索条件1, 範囲2, 検索条件2, ...）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1			No	Q1	Q2-1	Q2-2	Q2-3	Q2-4	Q2-5	Q3-1	Q3-2	Q3-3	Q3-4	Q3-5	Q4
2			1	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1
3			2	2	0	1	1	1	0	-	1	0	1	0	1
4			3	2	1	0	1	0	0	1	-	0	-	0	2
5			4	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1
28			27	1	1	1	0	1	0	1	1	-	0	0	3
29			28	1											
30			29	2											
31			30	2											
32															
33		0													
34		1		16											
35		2													
36		3													
37		4													
38		5													
39															

- Q1で1を選択した人の数をカウントしたい
➡ 関数は、「=COUNTIFS(D\$2:D\$31,1)」
※ 範囲（D列の2行目から31行目）が、
検索条件（1）と同じであるものをカウントせよという指示
- 関数は、「=COUNTIFS(D\$2:D\$31,\$B34)」とするとさらに楽
➡ 範囲（D列の2行目から31行目）が、
検索条件（B列の34行目=1）と同じであるものをカウントせよという指示
※ \$マークは、他のセルに関数をコピーした際に、
該当部分を固定（勝手にセルにあわせて変更しない）せよという指示。
上記の場合、範囲に関しては、行は必ず2行目から31行目を参照せよ。
検索条件に関しては必ずB行を参照せよという意味。

※前頁の続き

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
1			No	Q1	Q2-1	Q2-2	Q2-3	Q2-4	Q2-5	Q3-1	Q3-2	Q3-3	Q3-4	Q3-5	Q4	
2			1	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1	
3			2	2	0	1	1	1	0	-	1	0	1	0	1	
4			3	2	1	0	1	0	0	1	-	0	-	0	2	
5			4	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1	
28			27	1	1	1	0	1	0	1	1	-	0	0	3	
29			28	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	5	
30			29	2	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	1	
31			30	2	0	1	0	0	0	-	1	-	-	0	2	
32																
33		0			3	14	16	9	29	6	3	7	3	29		
34		1		16	27	16	14	21	1	21	13	7	18	0	14	
35		2		14											10	
36		3													3	
37		4														
38		5														
39																

- 他にも集計したい部分があれば、セルをコピー&ペーストすることで自動計算される。
- 先ほど、赤枠のセルに入力した関数は「=COUNTIFS(D\$2:D\$31,\$B34)」
 - ➔ その下のセル（青枠のセル）にコピー&ペーストすると「=COUNTIFS(D\$2:D\$31,\$B35)」となる
 - ※B列の35行目 = 2と同じであるものをカウントせよという指示
 - ➔ 右のセル（緑枠のセル）にコピー&ペーストすると「=COUNTIFS(E\$2:E\$31,\$B34)」となる
 - ➔ E列の2行目から31行目に参照範囲がわり、検索条件であるB列の34行目 = 1と同じであるものをカウントせよという指示

※前頁の続き

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
1			No	Q1	Q2-1	Q2-2	Q2-3	Q2-4	Q2-5	Q3-1	Q3-2	Q3-3	Q3-4	Q3-5	Q4	
2			1	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1	
3			2	2	0	1	1	1	0	-	1	0	1	0	1	
4			3	2	1	0	1	0	0	1	-	0	-	0	2	
5			4	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1	
28			27	1	1	1	0	1	0	1	1	-	0	0	3	
29			28	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	5	
30			29	2	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	1	
31			30	2	0	1	0	0	0	-	1	-	-	0	2	
32																
33		0			3	14	16	9	29	6	3	7	3	29		
34		1		16	27	16	14	21	1	21	13	7	18	0	14	
35		2		14											10	
36		3													3	
37		4													2	
38		5													1	
39																
40		0			10%	47%	53%	30%	97%	22%	19%	50%	14%	100%		
41		1		53%	90%	53%	47%	70%	3%	78%	81%	50%	86%	0%	47%	
42		2		47%											33%	
43		3													10%	
44		4														
45		5														

- 最後に割合を計算

赤枠のセル : 「=D34/SUM(D\$33:D\$38) 」

青枠のセル : 「=D35/SUM(D\$33:D\$38) 」

緑枠のセル : 「=E34/SUM(E\$33:E\$38) 」

①紙のアンケートを配布しExcel等にて管理：D. クロス集計（関数を活用するケース）

⇒こちらも、関数を組むか、ピボットテーブルを使って集計を行う必要。

■ 関数を組む場合、COUNTIFS関数でクロス集計も可能。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1			No	Q1	Q2-1	Q2-2	Q2-3	Q2-4	Q2-5	Q3-1	Q3-2	Q3-3	Q3-4	Q3-5	Q4
2			1	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1
3			2	2	0	1	1	1	0	-	1	0	1	0	1
4			3	2	1	0	1	0	0	1	-	0	-	0	2
5			4	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1
28			27	1	1	1	0	1	0	1	1	-	0	0	3
29			28	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	5
30			29	2	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	1
31			30	2	0	1	0	0	0	-	1	-	-	0	2

【Q1=1（日本）を選択】

0				1
1		16		15
2		0		
3				
4				
5				

【Q1=2（日本以外）を選択】

0				2
1		0		12
2		14		
3				
4				
5				

- Q1で1（日本）を選択し、かつ、Q2-1を選択した人の数をカウントしたい
 ⇒ 関数は「=COUNTIFS(\$D\$2:\$D\$31,1,E\$2:E\$31,\$B34)」
 ※範囲（D列の2行目から31行目）が検索条件（1）と同じ、かつ、
 範囲（E列の2行目から31行目）が、検索条件（B列の34行目=1）と同じであるものを
 カウントせよという指示
- 「=COUNTIFS（範囲1, 検索条件1, 範囲2, 検索条件2, 範囲3, 検索条件3, ...）」
 と範囲、検索条件を足していけば、3重、4重クロスも可能。

※前頁の続き

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1			No	Q1	Q2-1	Q2-2	Q2-3	Q2-4	Q2-5	Q3-1	Q3-2	Q3-3	Q3-4	Q3-5	Q4
2			1	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1
3			2	2	0	1	1	1	0	-	1	0	1	0	1
4			3	2	1	0	1	0	0	1	-	0	-	0	2
5			4	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1
28			27	1	1	1	0	1	0	1	1	-	0	0	3
29			28	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	5
30			29	2	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	1
31			30	2	0	1	0	0	0	-	1	-	-	0	2

【Q1=1（日本）を選択】

0				1	10	13	3	15	3	1	2	3	15
1			16	15									
2			0										
3													
4													
5													

- Q1で2（日本以外）を選択し、かつ、Q2-1を選択した人の数をカウントしたい場合には関数は「=COUNTIFS(\$D\$2:\$D\$31,2,E\$2:E\$31,\$B34)」となる。
- あとは、他のセルにコピー＆ペーストすることで自動計算される。

【Q1=2（日本以外）を選択】

0				2	4	3	6	14	3	2	5	0	14
1			0	12	10	11	8	0	9	8	6	8	0
2			14										
3													
4													
5													

①紙のアンケートを配布しExcel等にて管理：D. クロス集計（ピボットテーブルを活用するケース）
 ➡集計においてはピボットテーブル（Excelに備えられている集計ツール）を使うのも一手。

【ピボットテーブルの使い方】

1. 集計したいデータ範囲を選択し、「挿入」→「ピボットテーブル」を選択。

The screenshot shows the Microsoft Excel interface with the '挿入' (Insert) ribbon selected. The 'ピボットテーブル' (PivotTable) button is highlighted, and a tooltip is displayed over it. The tooltip contains the following text:

ピボットテーブル
 複雑なデータをピボットテーブルに簡単に配置し、集計します。
 参考：値をダブルクリックすると、どの値が合計に含まれるかを確認することができます。
[詳細情報](#)

The background shows a data table with columns labeled Q1, Q2-1, Q2-2, Q2-3, Q2-4, Q2-5, Q3-1, Q3-2, Q3-3, Q3-4, Q3-5, and Q4. The data values are as follows:

	Q1	Q2-1	Q2-2	Q2-3	Q2-4	Q2-5	Q3-1	Q3-2	Q3-3	Q3-4	Q3-5	Q4
1	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1
2	2	0	1	1	1	0	-	1	0	1	0	1
4	2	1	0	1	0	0	1	-	0	-	0	2
5	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	1
28	1	1	1	0	1	0	1	1	-	0	0	3
29	1	1	0	0	1	0	1	-	-	1	0	5
30	2	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	1
31	30	2	0	1	0	0	0	-	1	-	0	2

※前頁の続き

- 別のシートかタブにて、空のピボットテーブルが立ち上がる。※左下の図
- 「Q1（居住地）」と「Q4（満足度）」のクロスを行いたい場合は、「ピボットテーブルのフィールド」にあるQ1を「列」に、Q4を「行」にドラッグ&ドロップ。※右下の図
- 集計対象とする項目（今回は全ての回答に必ず存在する「No」）を値にドラッグ&ドロップ。
- 集計対象とする項目の初期設定は「合計」になっているので「個数」に変更。
- 表形式で集計結果が表示される。

ピボットテーブル1

レポートを作成するには、[ピボットテーブルのフィールド リスト] からフィールドを選択してください

ピボットテーブルのフィールド

レポートに追加するフィールドを選択してください:

検索

No
 Q1
 Q2-1
 Q2-2
 Q2-3

次のボックス間でフィールドをドラッグしてください:

▼ フィルター	列
≡ 行	Σ 値

ピボットテーブルのフィールド

レポートに追加するフィールドを選択してください:

検索

Q3-3
 Q3-4
 Q3-5
 Q4
その他のテーブル...

次のボックス間でフィールドをドラッグしてください:

▼ フィルター	列
	Q1
≡ 行	Σ 値
Q4	個数 / No

行ラベル	1	2	総計
1	8	6	14
2	2	8	10
3	3		3
4	2		2
5	1		1
総計	16	14	30

明確な意図を持ってアンケートの分析を行うメリット

主なアンケートの実施手法

手法別解説：① 紙のアンケートを配布しExcel等にて管理

手法別解説：② Googleフォーム等の入力フォームを活用

手法別解説：③ Questant等のアンケート専用ツールを活用

さいごに

②Googleフォーム等の入力フォームを活用：A. 調査画面作成

➡以下のような画面が作成可能。「紙のアンケートと比較した場合の長所」と「Googleフォーム等の入力フォーム特有の欠点」が存在。

●●アンケート

※アンケートの標準的な回答時間は約5分です。

※アンケートの結果は今後、本事業をより良くしていくために活用致します。

※回答結果は統計的に処理致しますので、特定の個人が識別できる情報として、公表されることはありません。

共有なし



* 必須の質問です

Q1. あなたの居住地を選択してください。*

- 日本
- 日本以外

Q2. 本事業を構成する次の内容のうち、鑑賞・参加・利用したものがあれば、
全て選択してください。*

- メイン展示（会場A）
- サブ企画（会場B）
- 参加・体験型事業（ワークショップやガイドツアー）

- 飲食サービス（フードコート）
- 鑑賞・参加・利用したものはなし

Q3. では、そのうち、満足したものがあれば、全て選択してください。*

- メイン展示（会場A）
- サブ企画（会場B）
- 参加・体験型事業（ワークショップやガイドツアー）
- 飲食サービス（フードコート）
- 満足したものはなし

Q4. あなたは、本事業全体について、どのような感想をお持ちですか。*

- 満足
- どちらかという満足
- どちらともいえない
- どちらかという不満
- 不満

送信

※前頁の続き

●●アンケート

※アンケートの標準的な回答時間は約5分です。

※アンケートの結果は今後、本事業をより良くしていくために活用致します。

※回答結果は統計的に処理致しますので、特定の個人が識別できる情報として、公表されることはありません。

共有なし

* 必須の質問です

Q1. あなたの居住地を選択してください。*

- 日本
- 日本以外

Q2. 本事業を構成する次の内容のうち、鑑賞・参加・利用したものがないものを全て選択してください。

- メイン展示（会場A）
- サブ企画（会場B）
- 参加・体験型事業（ワークショップやガイドツアー）

- 飲食サービス（フードコート）
- 鑑賞・参加・利用したものはない

Q3. では、そのうち、満足したものがあれば、全て選択してください。*

- メイン展示（会場A）
- サブ企画（会場B）
- 参加・体験型事業（ワークショップやガイドツアー）

【「紙のアンケート」と比較した場合の長所】

- 必須回答の設定（回答しないとエラーが表示され回答を終了できない）が可能であるため未回答を防ぐことができる。
- ラジオボタン＝単一選択、チェックボックス＝複数選択の設定が可能で、方法を誤った回答が生まれない。回答者にとっても視覚的にも分かりやすい。

【「Googleフォーム等の入力フォーム」特有の欠点】

- 分岐設定機能が貧弱（最低限の分岐設定しかできない）。
➡ Q2とQ3の内容の矛盾、同一回答内の矛盾を排除する設定は難しい。
- アンケートフォームではないので、ユーザーインターフェースの質（見た目・操作性）が低い。
回答者に与える信頼性も低い。

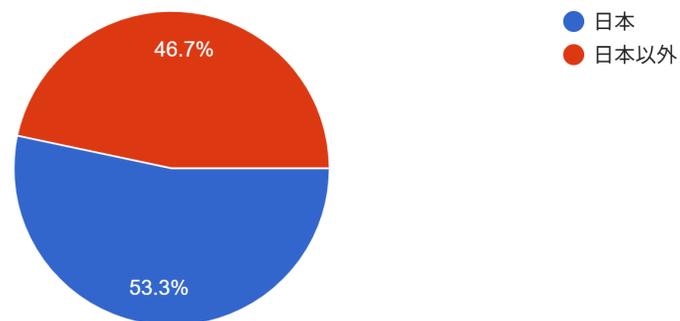
②Googleフォーム等の入力フォームを活用：C. 単純集計

➡Googleフォーム等の機能にて単純集計をしてくれ、自動的にグラフも生成してくれる。
ただし、グラフの形式は一般的なものと異なる場合があり、表現方法も変更できない。

【Googleフォームで自動生成されるグラフ例】

Q1. あなたの居住地を選択してください。

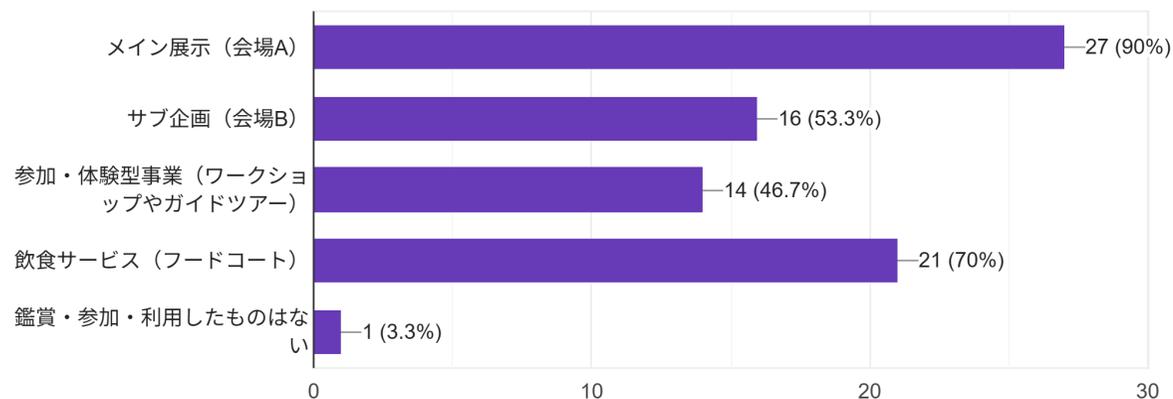
30件の回答



Q2.

本事業を構成する次の内容のうち、鑑賞・参加・利用したものがあれば、全て選択してください。

30件の回答

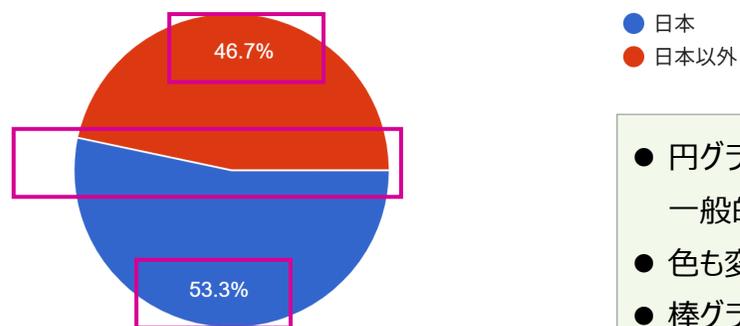


※前頁の続き

【Googleフォーム で自動生成されるグラフ例】

Q1. あなたの居住地を選択してください。

30件の回答

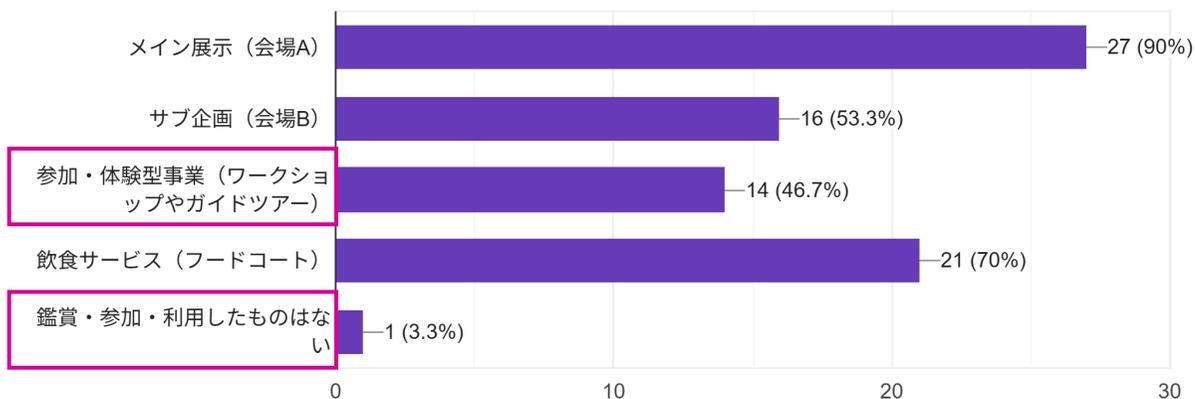


- 円グラフは分類別の回答数が表示されない。
一般的な形式ではない（90度の位置に起点がある）。
- 色も変更不可
- 棒グラフは文字の折り返し位置なども修正不可

Q2.

本事業を構成する次の内容のうち、鑑賞・参加・利用したものがあれば、全て選択してください。

30件の回答



②Googleフォーム等の入力フォームを活用：D. クロス集計

➡単純集計の機能しか備えていないので、ローデータをスプレッドシートに出力し、自身で集計する必要。

【ローデータのダウンロード方法】

- 集計画面の「スプレッドシートで表示」を選択。

【Googleフォーム の回答結果参照画面】

無題のフォーム

公開

質問 回答 30 設定

30 件の回答

スプレッドシートで表示

要約 質問 個別

Q1. あなたの居住地を選択してください。

30 件の回答

グラフをコピー

● 日本
● 日本以外

居住地	割合
日本	53.3%
日本以外	46.7%

②Googleフォーム等の入力フォームを活用：ローデータの出力

➡ただし、出力データは「数字データ」ではなく「テキストデータ」になってしまっていることが大きな欠点。

このままでは、表計算ソフトで集計することが難しく、一定程度のリテラシーがないと扱うことができない。

【Googleフォーム で出力されるデータ例】

	A	B	C	D	E	
1	Form_Responses	タイムスタンプ	Q1. あなたの居住地を	Q2. 本事業を構成する次の内容のうち、鑑賞	Q3. では、そのうち、満足したもの	Q4. あなたは、本事業全体について
2	2026/02/03 8:26:05	日本	メイン展示（会場A）、フードコート	メイン展示（会場A）、フードコート	満足	
3	2026/02/03 8:26:52	日本以外	サブ企画（会場B）、参加・体験型事業、フードコ	サブ企画（会場B）、フードコート	満足	
4	2026/02/10 17:43:28	日本	メイン展示（会場A）、飲食サービス（フードコー	メイン展示（会場A）、飲食サービス（フ	満足	
5	2026/02/10 17:43:45	日本以外	サブ企画（会場B）、参加・体験型事業（ワークシ	サブ企画（会場B）、飲食サービス（フ	満足	
6	2026/02/10 17:43:56	日本以外	メイン展示（会場A）、参加・体験型事業（ワーク	メイン展示（会場A）	どちらかという満足	
7	2026/02/10 17:44:18	日本	メイン展示（会場A）、飲食サービス（フードコー	メイン展示（会場A）、飲食サービス（フ	満足	
8	2026/02/10 17:44:32	日本以外	メイン展示（会場A）、サブ企画（会場B）、参加・	メイン展示（会場A）、飲食サービス（フ	満足	
9	2026/02/10 17:44:48	日本	メイン展示（会場A）、飲食サービス（フードコー	飲食サービス（フードコート）	満足	
10	2026/02/10 17:45:02	日本以外	メイン展示（会場A）、サブ企画（会場B）、参加・	メイン展示（会場A）、サブ企画（会場B）	どちらかという満足	
11	2026/02/10 17:45:15	日本	メイン展示（会場A）、飲食サービス（フードコー	メイン展示（会場A）、飲食サービス（フ	満足	
12	2026/02/10 17:45:27	日本	メイン展示（会場A）、飲食サービス（フードコー	メイン展示（会場A）、飲食サービス（フ	満足	
13	2026/02/10 17:45:41	日本以外	メイン展示（会場A）、サブ企画（会場B）、参加・	サブ企画（会場B）	どちらかという満足	
14	2026/02/10 17:45:54	日本	メイン展示（会場A）、飲食サービス（フードコー	メイン展示（会場A）、飲食サービス（フ	満足	

明確な意図を持ってアンケートの分析を行うメリット

主なアンケートの実施手法

手法別解説：① 紙のアンケートを配布しExcel等にて管理

手法別解説：② Googleフォーム等の入力フォームを活用

手法別解説：③ Questant等のアンケート専用ツールを活用

さいごに

③ Questant等のアンケート専用ツールを活用：A. 調査画面作成

➡以下のような画面が作成可能。「Googleフォーム等の入力フォーム特有の欠点」の大半は解消。

The image displays three sequential screenshots of a mobile survey application interface, each showing a different question type. The interface is clean and modern, with a red header bar and a progress indicator.

Screenshot 1 (Q1): A single-choice question titled "Q1." asking the user to select their residence. The question text is "あなたの居住地を選択してください。(1つだけ選択)". The options are "日本" (Japan) and "日本以外" (Outside Japan). The "日本以外" option is selected. A red button labeled "次へ" (Next) is at the bottom.

Screenshot 2 (Q2): A multiple-choice question titled "Q2." asking the user to select the content of the next business. The question text is "本事業を構成する次の内容のうち、鑑賞・参加・利用したものがあれば、全て選択してください.". The options are "メイン展示 (会場A)", "サブ企画 (会場B)", "参加・体験型事業 (ワークショップやガイドツアー)", and "飲食サービス (フードコート)". The first, second, and fourth options are selected.

Screenshot 3 (Q3): A multi-select question titled "Q3." asking the user to select the content they are satisfied with. The question text is "では、そのうち、満足したものがあれば、全て選択してください.". The options are "メイン展示 (会場A)", "サブ企画 (会場B)", "飲食サービス (フードコート)", and "満足したものはなし". The third option is selected.

※前頁の続き

【「Googleフォーム等の入力フォーム」と比較した場合の長所】

- 高度な分岐設定も可能。
 - ➔ 画面は、Q2で「メイン展示」、「サブ企画」、「参加・体験型事業」、「飲食サービス」を選択した例。
 - ➔ Q2で選択していない項目（参加・体験型事業）はQ3に表示されない。
- 「上記のいずれも鑑賞・参加・利用していない」、「満足したものはなし」も選択不可に。
- ユーザーインターフェース（見栄え等）の質が高い。

Q1.
あなたの居住地を選択してください。（1つだけ選択）
*
 日本
 日本以外
次へ

Q2.
本事業を構成する次の内容のうち、鑑賞・参加・利用したものがあれば、全て選択してください。
*（複数選択）
 メイン展示（会場A）
 サブ企画（会場B）
 参加・体験型事業（ワークショップやガイドツアー）
 飲食サービス（フードコート）

Q3.
では、そのうち、満足したものがあれば、全て選択してください。
*（複数選択）
 メイン展示（会場A）
 サブ企画（会場B）
 飲食サービス（フードコート）
 満足したものはなし

③Questant等のアンケート専用ツールを活用：C. 単純集計

➡Googleフォーム等と同様に単純集計をしてくれ、自動的にグラフも生成してくれる。

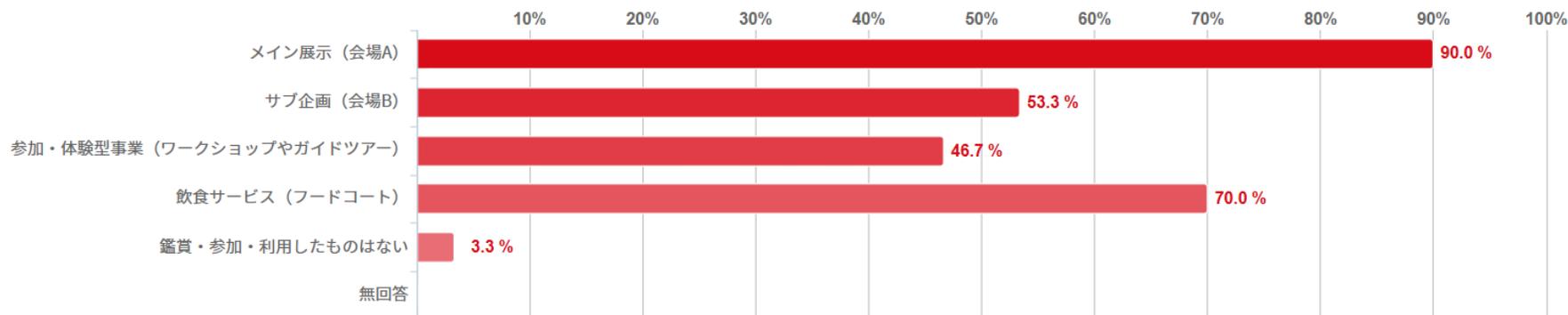
- 分類別の回答数は表示されない。

Q2.

本事業を構成する次の内容のうち、鑑賞・参加・利用したものがあれば、全て選択してください。

(回答数: 30)

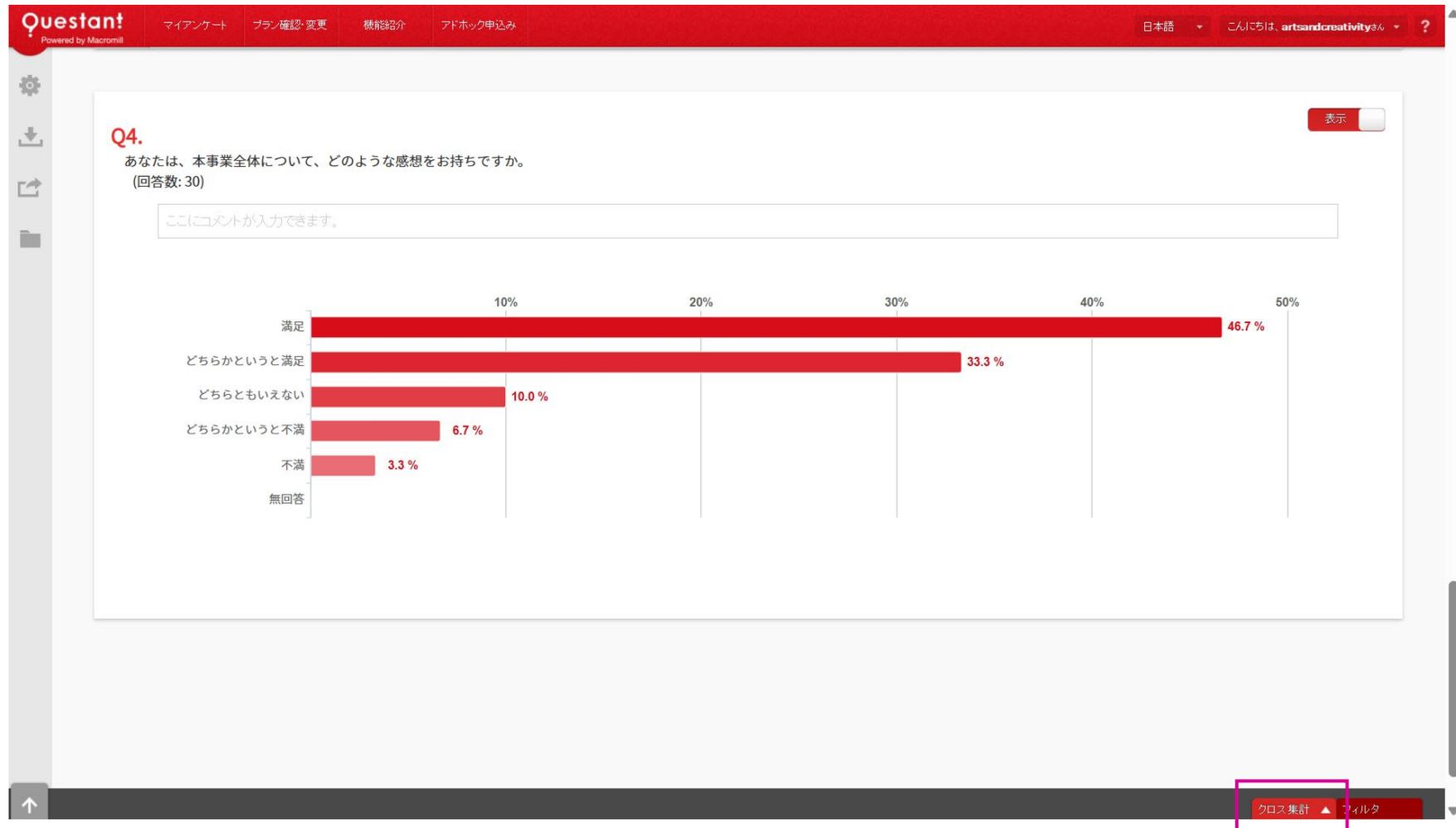
ここにコメントが入力できます。



③Questant等のアンケート専用ツールを活用：D. クロス集計 ⇒クロス集計機能が備わっていることが大きな長所。

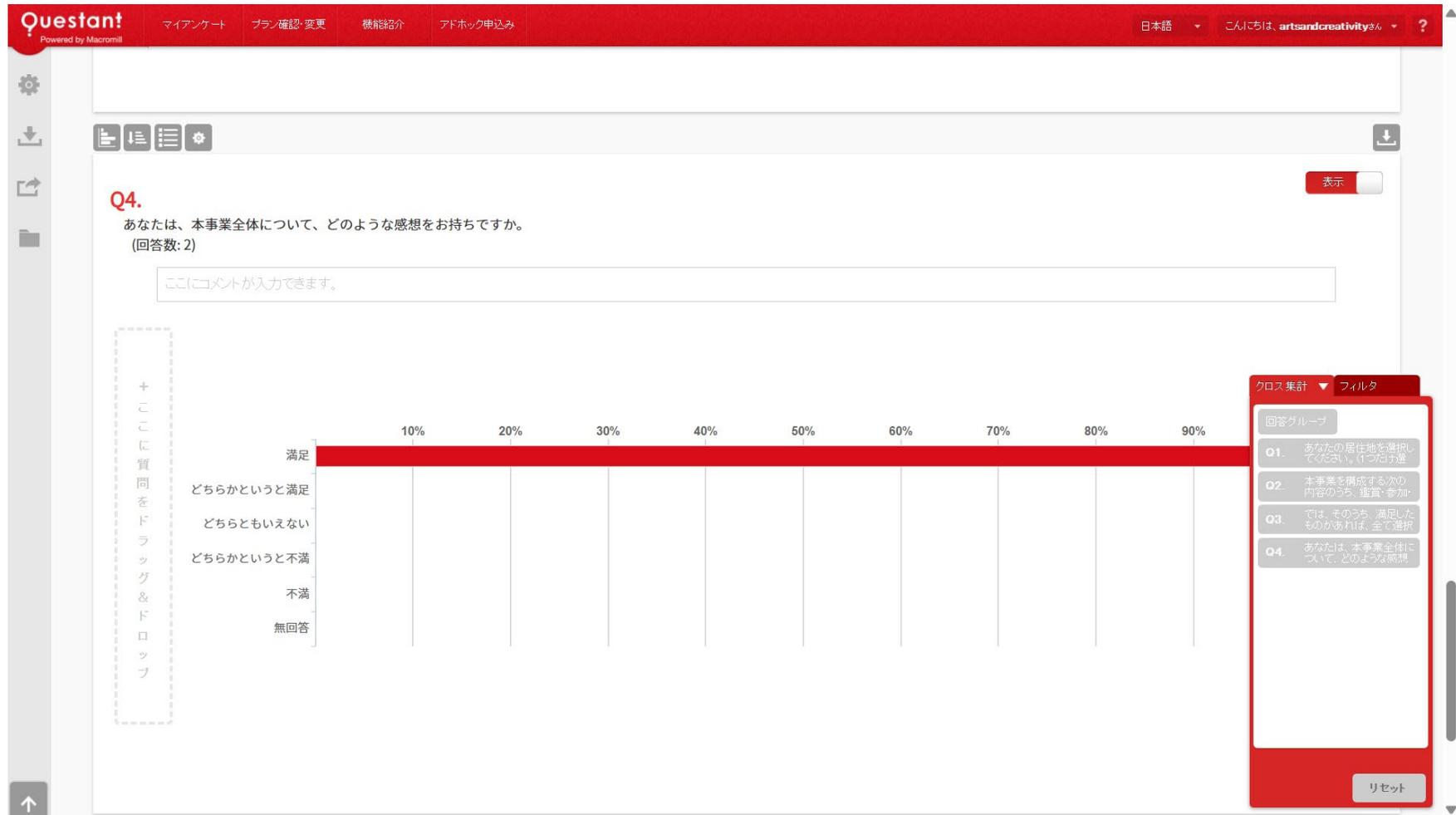
【ピボットテーブルの使い方】

1. 集計画面の右下に「クロス集計」というタブがあるので、クリック。



※前頁の続き

2. クロス集計機能が立ち上がる。



※前頁の続き

3. クロス集計をしたい項目をドラッグ&ドロップ（この場合は、Q4とQ1のクロスが見たいので、Q4のグラフにQ1をドロップ）すると、クロス集計されたグラフが表示される。



③Questant等のアンケート専用ツールを活用：ローデータの出力

➡表計算ソフトでも扱いやすい、適切な形のデータを出力することが可能。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	
1	SAMPLEID	ANSWERD	CELL	CELLNAME	Q1	Q2_1	Q2_2	Q2_3	Q2_4	Q2_5	Q3_1	Q3_2	Q3_3	Q3_4	Q3_5	Q4	ANSWER_STAR	
2	1	#####	1	回答グループ	1	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	#####	
3	2	#####	1	回答グループ	2	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0	1	#####	
4	3	#####	1	回答グループ	2	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	#####	
5	4	#####	1	回答グループ	1	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	#####	
6	5	#####	1	回答グループ	2	1	1	1	1	0	1	0	0	1	0	1	#####	
7	6	#####	1	回答グループ	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	#####	
8	7	#####	1	回答グループ	2	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	2	#####
9	8	#####	1	回答グループ	1	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	#####	
10	9	#####	1	回答グループ	1	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	#####	
11	10	#####	1	回答グループ	2	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	2	#####	
12	11	#####	1	回答グループ	1	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	#####	
13	12	#####	1	回答グループ	1	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0	4	#####	
14	13	#####	1	回答グループ	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	0	1	#####	
15	14	#####	1	回答グループ	2	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0	2	#####	
16	15	#####	1	回答グループ	2	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	2	#####	
17	16	#####	1	回答グループ	1	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	4	#####	
18	17	#####	1	回答グループ	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	#####	
19	18	#####	1	回答グループ	2	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	2	#####	
20	19	#####	1	回答グループ	2	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	#####	
21	20	#####	1	回答グループ	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	1	#####	
22	21	#####	1	回答グループ	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	2	#####	
23	22	#####	1	回答グループ	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	#####	
24	23	#####	1	回答グループ	2	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	#####	
25	24	#####	1	回答グループ	2	1	0	1	1	0	1	0	1	1	0	1	#####	
26	25	#####	1	回答グループ	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3	#####	
27	26	#####	1	回答グループ	1	0	0	0	0	1*	*	*	*	*		3	#####	
28	27	#####	1	回答グループ	1	1	1	0	1	0	1	1	0	0	0	3	#####	
29	28	#####	1	回答グループ	1	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	5	#####	

rawdata +

準備完了 アクセシビリティ: 利用不可

※前頁の続き

【ローデータのダウンロード方法】

- 集計画面にて「ダウンロード」→「ローデータ」を選択。

The screenshot displays the Questant survey analysis interface. At the top, there is a red navigation bar with the Questant logo and various menu items. The main content area shows a survey titled "アンケート" (Survey) with a bar chart on the left and summary statistics on the right. A "ダウンロード" (Download) dialog box is open in the center, prompting the user to select data to download. The dialog box contains three options, with the first one, "ローデータ(生の回答データ)" (Raw Data (Raw Response Data)), selected and highlighted with a red box. A red arrow points from the "ダウンロード" button in the background to the selected option in the dialog box. The dialog box also includes "キャンセル" (Cancel) and "次へ" (Next) buttons.

明確な意図を持ってアンケートの分析を行うメリット

主なアンケートの実施手法

手法別解説：① 紙のアンケートを配布しExcel等にて管理

手法別解説：② Googleフォーム等の入力フォームを活用

手法別解説：③ Questant等のアンケート専用ツールを活用

さいごに

再掲) 明確な意図を持ってアンケートの分析を行うメリット

- 単純集計：全体をまとめて分析するもの ⇔ クロス集計＝2軸以上での分析を行うもの

- 目的を明確にしてクロス集計を行うと、
以降の事業実施に向けた具体的なアクションにつながる示唆を導ける。

「来場者アンケート集計・分析のノウハウ（初級編 Part1）」にて下記内容も解説。参照いただきたい。

■ 回収した紙のアンケート調査票の管理に係る留意点

- 「いつ回収した紙の調査票なのか（日付）」、「何の事業（公演・会場等）で回収したアンケートなのか」がわかるように管理する。
- アンケート調査票に番号を付与する。

■ 回収した紙のアンケート調査票の入力に係る留意点

- 人力で目視による集計を行うことは避ける。
- 選択肢で選んでもらったものは数字で入力する。
- Googleフォーム等の無料汎用フォームではなく、Questant等のアンケート専用ツールの活用を推奨。

■ 集計時の留意点

- 単純集計（全体の回答データを一緒くたに扱った集計）だけではなく、クロス集計（複数の要素をかけ合わせた集計）も行う。
- 適切な分母を設定して集計を行う。

■ グラフ作成における留意点

- 各グラフの特性を理解して適したものを選択する。
- 情報量が多い場合はグラフより表のほうがわかりやすい場合がある。

初級編 Part1 のURL <https://youtu.be/IMOV0rloRhs>